

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容、又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		目的や適性に合わせて部屋を使い分けしている。	
	② 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		玄関に段差はあるものの、バリアフリー化されている。目的や適性に合わせて部屋を使い分けしている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		支援終了後に毎日、清掃を行っている。活動に集中できるよう施設内を整理整頓している。	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		<input type="radio"/>		アンケートは配布、回収しているが、事業所内での評価改善に留まっている。平成30年度分から公開している。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<input type="radio"/>		他事業所による評価を受けている。	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>			
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>			
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		児童発達表等を活用し、アセスメントを行っている。	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>			
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>			
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		活動プログラムはチームで立案し、スケジュールは全体で把握できるようにしている。	

適切な支援の提供	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		1日のスケジュールを個人の適正に応じて組むように努めている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		集団活動をメインとしているが、集団の中での個別課題をアセスメントし、作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		スケジュールは視覚的提示で確認できるようにしている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必要に応じて情報共有に努めている。支援経過記録記入時に反省を行い共通理解を図っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日行っている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		反省を行うことで日々の支援に活用するようにしている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		送迎時や連絡ノート、支援計画の開示など共通理解を図っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修には積極的に参加している。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		戸外活動において、交流の場は多い。公共の行事には参加し、交流の場を増やしている。	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		子ども部会等に参加している。	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時、または面談を通して共通理解を図っている。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者会の開催、保護者向け会報を発信するなど取り組んでいる。	

保護者への説明責任等	③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		変更があった場合は保護者向け会報を通して都度行っている。	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		その都度、相談に応じるよう努めている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年2回、保護者会を開催しコミュニティを作ろうと取り組んでいる。	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		必要に応じてお伺いしたり、電話対応で理解と協力を得ている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		保護者向け会報の発信、連絡帳を通して行事予定等をお知らせしている。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報は鍵付き書庫に保管し、管理している。	
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		それぞれの家庭に応じて対応している。	
非常時等の対応	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			当事業所が主催する行事はないが、近隣の事業所が開催する行事には参加している。
	④②	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染時対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に火災、地震、水害、不審者対策等の避難訓練を行っている。	
	④④	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		てんかん発作についての職員研修を行っている。また、症状が現れた場合の対策を全体周知し把握している。	
	④⑤	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			アレルギーについて確認表を配布し把握している。医師の指示書については家庭にいただけるよう促している。
	④⑥	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例、事故報告を記録として残し、全体周知している。	
	④⑦	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員研修にて全体周知を行っている。	
	④⑧	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			